

件名	「三十人以下学級」の早期実現に関する請願				
提出者	墨田区東向島三丁目二番十三号 内田ビル2F				
住所氏名	三十人以下学級をすすめる区民の会		会長	村上ふみ子	外 五六三人
受理年月日	平成十五年一月二十八日	受理番号	第一号	紹介議員	西 恭三郎

要 旨

- 一 「三十人以下学級」の早期実現に向け、墨田区独自の計画を具体的に示してください。
- 二 「三十人以下学級」実現のための財政的な支援や「学級編成基準」の改善を行うよう、国及び東京都に対し、意見書を提出してください。

(理由)

公立学校での弾力的な学級編成を可能にするため、文部科学省は学校の設置者である市区町村が、都道府県の基準に上乘せる形で自由に常勤教員の数を増やせるよう、制度改正する方針を固めたとの報道がされました。しかし、増員分の給与は市区町村が全額負担することが条件になっています。

今年度は、福島県、鳥取県、宮崎県など二十二道府県が小学校低学年や中学一年生を中心に、自治体独自の少人数学級を実施しました。これは、きめ細かな指導が可能になる少人数学級を求める声を反映したものです。国や東京都は、授業単位の少人数化(少人数授業)のために教員の配置を進めてきていますが、生活面にまで目を配るきめ細かな教育のためには、学級単位の少人数化が不可欠です。

各地の県教育委員会が一同に会した「少人数学級編成研究会」で、奈良教育大学の八尾坂教授は、四十人という日本の学級編成基準は「先進国のなかで一番遅れている」と指摘し、アメリカ・テネシー州での研究を例に、少人数学級は補助教員を配置するよりも効果があり、学力面だけでなく学習意欲や情緒面でも改善が見られることを示しました。

また、山形県からは、今年度から少人数学級を実施した学級へのアンケートの結果が紹介されました。「子どもとの対話が  
増えた」八十四%、「子どものノート、ワークシート、作品等をじっくり見ることができた」九十八%、「個別指導ができた」  
七十九%など、子どもと教師のかかわりや子どもへの意欲、知識・理解・技能などの改善が進んでいることが浮き彫りになり  
ました。同時に、多くの県から、財政的な厳しさが訴えられました。

墨田区においても、未来を担う子どもたちにきめ細かな教育を保障するため、三十人以下学級実施へのビジョンを示して  
ください。それを実現させるために、「学級編成基準」の改正を含む財源支援を国や東京都に要求してください。

以上の趣旨をご理解の上、右事項の実現をお願いいたします。

以  
上